

103-258

問題文

前問の選択肢1～5に挙げた薬物の作用機序に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. セロトニン5-HT₁ 受容体を遮断する。
2. アンチトロンビン非依存的に血液凝固第Xa因子を抑制する。
3. トロンボキサンA₂ の産生を抑制する。
4. 血小板におけるサイクリックAMP(cAMP)の分解を抑制する。
5. 血小板におけるcAMPの産生を促進する。

解答

問258 : 2問259 : 3, 5

解説

問258

問259 とあわせて解説します。

問259

アルプロスタジルは、プロスタグランジン E₁ という血小板凝集抑制などの生理活性を有する化合物です。慢性動脈閉塞症における四肢疼痛に用いられます。

ダビガトラン（プラザキサ）は、腎排泄型の直接トロンビン阻害薬です。P-gp の基質です。相互作用により血中濃度が上昇するため イトラコナゾール（経口）との併用が禁忌です。

サルボグレラート（アンブラーグ）は、5-HT₂ 遮断薬です。慢性動脈閉塞症に伴う諸症状に用いられます。

チクロピジン、ADP の P2Y₁₂ 受容体を遮断することで、アデニル酸シクラーゼ活性を増強しサイクリックAMP（cAMP）を増加させます。その結果、血小板凝集を抑制させます。慢性動脈閉塞症に伴う諸症状に用いられます。

イコサペント酸エチルは、EPA 製剤です。アラキドン酸代謝を競合的に阻害することによりトロンボキサン A₂ 産生を抑制し、血小板凝集を抑制します。

以上より、問258 の正解は 2 です。

問259 の正解は 3,5 です。